



池田けい子 (公明党)

1. 空き家の防犯対策について
2. 特殊詐欺・悪質商法から高齢者を
守れ

- 問** 空き家の実態調査の実施、及び所有者が気軽に相談できる、専門団体と連携した市独自のワンストップ相談窓口の設置を要望するが、いかがか。
- 答** 住宅マスタープラン改正(令和8年)前に、空き家の実態調査を実施し、空き家になる前の対策が重要と考えることから、相談体制についても検討していく。
- 問** 巧妙化する特殊詐欺・悪質商法から高齢者を守るための取り組みについて、また自殺などの二次被害を防ぐケアが必要と考えるが、見解を伺う。
- 答** 地域や介護事業者等の見守りや気づき、注意を払っていくことが大きな手立てと考える。社会福祉協議会の事業の活用も促し、支援していく。
- 問** 個人家庭への防犯カメラや、録画機能付きドアホンの設置に関わる費用の補助(住まいの防犯対策補助金)制度を実施すべきと考えるが、いかがか。
- 答** 犯罪抑止や早期解決に寄ると認識している。実施している近隣市の状況を確認し検討していく。



渡辺しんじ (公明党)

1. 学校部活動の地域連携・地域クラブ
活動への移行に向けて

- 問** 少子化が進む中で持続可能性や教職員の負担軽減など、部活動改革が進められている。改革推進期間のスタートである令和5年度の進捗状況を伺う。
- 答** 市教育委員会では独自にアンケート調査を実施し、生徒や教員の実態把握に努めている。
- 問** 地域部活動に移行すると基本、受益者負担になる。困窮家庭など、支援策はどのように考えているか伺う。
- 答** 費用面での現状把握をし、保護者の負担軽減に取り組んでいきたい。
- 問** 各スポーツ団体、文化団体との顔の見える関係づくりによる人材発掘を推進してもらいたいがいかがか。
- 答** 実態把握をして検討していきたい。
- 問** 市内で盛んなボッチャや日本一英語を話せる目標を掲げている英会話クラブなど、多摩市の特性を生かした種目から考え、取組んでもらいたいがいかがか。
- 答** 協議会を立ち上げ、地域、学校との連携を図りながら、生徒が主体的に取り組める部活動を模索していく。



石山ひろあき (自民党)

1. 観光事業の可能性について
2. 子ども食堂・誰でも食堂について

- 問** 観光事業活性化の為に宿泊を伴わない地域資源の再確認が重要。定住・移住促進を効率良く促していくためには観光協会が必要と感じるが現在の方向性を伺う。
- 答** 事業実施の際、観光協会があると国や都から補助金が得やすいことや、事業の自由度が高まるのが挙げられるが、本市のメリットと負担を考えながら検討する。
- 問** 他市のようにシティセールスのページを作成し、いくつかに分かれている市内を紹介するサイトをまとめ、利用者に見やすく、分かりやすくしてはどうか。
- 答** 利用者の情報取得方法が日々変化していることを踏まえ、どう誘導していくか検討し改善していく。
- 問** アイスランドの食材を使い、食プロジェクトに取り組んでいるが、地場野菜も活用していただけないか。
- 答** 収穫時期の問題があるが実施したいと考えている。
- 問** 子ども食堂事業に1施設24万円の経費補助をしてきたが、都の制度を活用し48万円に増額できないか。
- 答** 次年度以降の予算では増額をする方向性である。



あらたに隆見 (公明党)

1. 環境共生型都市の実現に向けて
2. 健幸まちづくりのさらなる前進について

- 問** 気候市民会議からの提案の全体方針に掲げられた、豊かな暮らしとはどのように受け止めているのか伺う。
- 答** 物質的な豊かさではなく、上質な心の豊かさを指し、我慢しないで、みな楽しく気候対策ができることで、若い人が住みたいと思える暮らしと理解している。
- 問** 気候市民会議では若い世代の声が大いに反映され高く評価しているが、今後はどのように取り組むのか伺う。
- 答** 今回参加の若者も含め、気候問題を市内全域に広めるため、来年度からの発展につなげていく。
- 問** スマートフォンなどで楽しく参加できる、江東区の環境検定のような取組みを導入すべきではないか。
- 答** 良いアイデアと受け止め、先進市を研究していく。
- 問** 厚生労働省が頭痛、肩こり、不眠症及び慢性便秘の緩解に効果を認めている椅子型電位治療器を、孤立防止のためにも他市並に公共施設に設置すべきではないか。
- 答** 利用者の利便性や設置する施設管理者の意見も聞き、財源のことも含め検討していく。

